

口腔科学演習（高橋俊介）

Seminar of Oral Science (Shun-suke Takahashi)

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 社会系・形態系・機能系・病態系分野
- ③ グループワーク
- ④ テーマ発表
- ⑤ 研究発表
- ⑥ ディベート

授業概要

疾病要因を形態、機能、病態、社会的側面から学際的に究明する科学と技術を学修し、俯瞰的に生命現象をとらえる能力を身につけることを目的に開講する。

本演習は、4つの項目で構成されている、**演習①概論講義**：本学を代表する研究分野の先生方にそれぞれの専門分野の概論講義を受講する、関連分野の学生は各テーマ発表として、**演習②テーマ発表**：概論講義をまとめ、各自それぞれのテーマに沿ってプレゼンを行い、概論講義担当者による評価を受ける。**演習③研究発表**：これまでの研究成果をまとめ、各自の研究成果についてプレゼンを行い、4～5名の多科大学院教員による評価を受ける。**演習④ディベート**：与えられたテーマについて異なる立場（肯定、否定）に別れ、グループワークにて進行用プロダクト作成と討論の作戦会議を行い、実際のディベートはテーマ担当者の評価を受ける。その際、試合の勝敗については、ジャッジ役の学生が決定する。

以上により口腔科学における俯瞰的な判断を行う素養を身につけ、各大学院生の研究活動における多角的、総合的な検証を行うことを目的として開講する。

授業科目の学修目標

口腔科学における各分野の特徴を生かした演習を行うことにより、疾病要因を形態、機能、病態、社会的側面から学際的に究明する科学と技術を修得し、俯瞰的に生命現象をとらえる能力ならびに口腔科学における俯瞰的な判断を行う素養を身につける。

授業計画

- ① 導入 1コマ 槻木恵一
- ② 口腔医療学演習概論 1コマ 向井義晴
- ③ 口腔科学演習概論 1コマ 松尾雅斗
- ④ 高度先進口腔医学演習概論 1コマ 不島健持
- ⑤ 生体管理学演習概論 1コマ 森本佳成
- ⑥ 社会総合医療科学演習概論 1コマ 山本龍生
- ⑦ 口腔腫瘍学演習概論 1コマ 櫻井 孝
- ⑧ 歯学教育学演習概論 1コマ 二瓶智太郎
- ⑨⑩ 個人作業①② 2コマ 高橋俊介
- ⑪ テーマ発表 1コマ 向井義晴
- ⑫ テーマ発表 1コマ 向井義晴 森本佳成
- ⑬ テーマ発表 1コマ 松尾雅斗 不島健持
- ⑭ 個人研究 1コマ 高橋俊介
- ⑮ 研究発表 1コマ 吉野文彦 坂口和歌子 濱野奈穂 石澤将人
- ⑯ 研究発表 1コマ 青山典生 鎌田要平 平田貴久 印南 永
- ⑰ 研究発表 1コマ 両角俊哉 渡辺清子 中村州臣 佐藤允俊
- ⑱ 研究発表 1コマ 泉 雅浩 天野カオリ 河田亮 平嶺浩子
- ⑲ 研究発表 1コマ 大橋 桂 室町幸一郎 大谷茉衣子 居作和人
- ⑳㉑ 研究発表 1コマ 高橋聡子 吉田彩佳 小澤重幸 稲葉啓太郎 小川綾野
- ㉒ ディベートについて 高橋俊介
- ㉓㉔㉕㉖㉗ グループワーク①～⑤ 5コマ 森本佳成 星 憲幸 川西範繁 湊田慎也 持田悠貴
- ㉘㉙ ディベート試合 2コマ
第1試合：山本龍生 湊田慎也 持田悠貴
第2試合：木本克彦 星 憲幸 川西範繁
第3試合：森本佳成
- ㉚ 総括 1コマ 槻木恵一

教科書および参考書

プロダクトを含めた配布プリント、指定、関連学術論文

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

これまでの研究活動により得られた口腔科学に関する知識、ならびに疾病要因の形態的、機能的、病態的、社会的側面に関する知識が必要である。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 学際的口腔科学の概要を説明できる。
- ② 社会系・形態系・機能系・病態系分野についての基本概念を説明できる。
- ③ グループワークによりプロダクトを作成しプレゼンテーションできる。
- ④ 口腔科学に関する概論講義についてテーマ発表としてプレゼンテーションできる。
- ⑤ これまでの研究成果をプロダクトとしてまとめ研究発表としてプレゼンテーションできる。
- ⑥ 自分の意志に関係なく与えられたテーマでディベートできる。
- ⑦ 上記を総合演習として実践できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	23%	32%	0%	40%	5%

評価の要点

- ・各演習①～④の項目ごとに評価者（大学院教員）による質疑応答（口頭試問：40%）とグループワークのアクティビティ等（その他：5%）を含め総合的に評価する。
- ・成果発表は、本演習で身についたことについての発表の内容を総合的に評価する。
研究発表・ディスカッション・ディベート：32%

理想的な達成レベルの目安

口腔科学演習の理想的な達成レベルは、総計として80%以上とする。